



リードオルガン・浜松からのメッセージ ～日本リードオルガン協会浜松大会公開コンサート～



鈴木開さん 名倉さん



鈴木重子さん ヘンゼラーさん 中村さん 大津さん



中村さん 伊藤さん



上畑さん

日本リードオルガン協会創立 20 周年、浜松市楽器博物館開館 20 周年を記念して、同協会の年次大会が、本年は楽器博物館との共催により、6 月 12 日（金）、13 日（土）の 2 日間にわたって浜松で開催されました。大会テーマは「足踏みオルガン 昨日・今日、そして明日へ」。会場のアクトシティ浜松研修交流センターには、会員 80 人のほか、一般来場者のべ 400 人が集まり、リードオルガンの演奏やお話に耳を傾けました。

12 日は会員のみプログラム。午後 1 時半から開会式とオープニングコンサートと研究発表、並びに分科会が行われました。開会式では久世望協会会長から「リードオルガン協会、楽器博物館がともに 20 周年ということで今回の大会を共催で開催することができた。リードオルガンの演奏はめったに聴けないので楽しんでください。」とあいさつがありました。続くオープニングコンサートでは、会員の加藤千加子さん（名古屋）、多田なおみさん（福岡）が

日本楽器製造株式会社（昭和 16 年頃？19 ストップ）とエスティ社（1891 年 / アメリカ）の楽器を演奏されました。

研究発表では「陸前高田市立博物館所蔵被災オルガンの修復」と題して、東日本大震災の津波で被災した明治時代に製作された三省堂の海保オルガンの修復について、修復を行った和久井真人さんがスライドを使って発表されました。その後は演奏・企画、調査・研究、修理・構造の 3 つの分科会に分かれて研修。夜は全国から集まった会員の親睦会がありました。

13 日は一般公開のプログラム。午前 10 時～ 11 時半は研修交流センター 62 研究交流室で講演会「山葉オルガン創業の頃」。東京音楽大学教授の武石みどりさんが、明治政府が始めた西洋音楽教育の中でのピアノやオルガンの役割、当時の人々の楽器メンテナンスの苦労、日本人によるオルガン製作の始まり、その中の一人である山葉寅楠の業績などを、当時の新聞記事など貴重な歴史資料を



使ってお話しされました。会員 80 人と一般市民 100 人ほどの参加がありました。

午後 1 時半からは、音楽工房ホールにて公開演奏会。会員を含めて会場の 250 席は満席。事前の一般申し込みは 5 月初めにはすでに 150 人を超え受付終了という盛況ぶりでした。

ステージには楽器博物館所蔵のリードオルガン 5 台が並び壮観。コンサートは三部構成で、第 1 部は「心のふるさと～童謡・唱歌・讃美歌にのせて～」というテーマで楽器博物館が担当しました。嶋館長から「浜松の世界に誇る楽器産業の原点は足踏み式のリードオルガンです。明治時代のキリスト教会や学校教育の唱歌の時間にリードオルガンが果たした役割は非常に大きなものです。日本人の心のふるさとは唱歌によって育てられたと言っても過言ではありませんし、滝廉太郎などの大作曲家も東京音楽学校（現東京芸術大学音楽学部）時代はオルガンで勉強したのです。ピアノや電子楽器とは全く別の価値感を持つ楽器です。忘れてはいけないのです。浜松の、いや、日本の原点ですから。」との挨拶があったあと、会員の鈴木開さん（京都）のオルガンとソプラノの名倉亜矢子さんと、「ふるさと」「花」「この道」「浜辺の歌」「夕焼け小焼け」「七つの子」「からたちの花」が演奏されました。続いて開さんと浜松ゆかりの芸術家の鈴木重子さんによる演奏で

ガーシュインの「サムワン・トゥ・ウォッチ・オーヴァー・ミー」、讃美歌の名曲「アメイジング・グレイス」。日本と欧米の雰囲気異なる懐かしい曲を楽しんでいただきました。使用したオルガンはエスティ社のオルガンでした。

第 2 部は協会会員によるステージでタイトルは「風を歌う～過去から未来へ～」。オルガンは弦楽器でも打楽器でもなく、空気リードという薄い金属片を振らせて鳴らす楽器。形は管状ではないのですが、管楽器の仲間です。空気＝風で鳴らす楽器。リードオルガンのことを明治時代の日本では「風琴（ふうきん）」と言いました。なんと素敵な名前でしょうね。

演奏は伊藤園子さん（東京）、中村証二さん（香川）、それにリコーダーで E. ヘンゼラーさん（広島）と大津磨由美さん（静岡）が加わりました。オルガンソロではカルク＝エーレルトの「夢魔」、スタンリーの「ヴォランタリー ホ短調」、日本人作曲家の大御所大中寅二の「小さな序章」、梅津美子の「平和の祈り」ほか。2 台のオルガンでボネッリの「トッカータ〈クレオパトラ〉」、ラインベルガーの「タバの歌」。リコーダーが加わってフレスコバルディの「カンツォン第 2 番」、イングランド古謡「グリーンスリーブス」、テレマンの「トリオンナタハ長調」ほか。

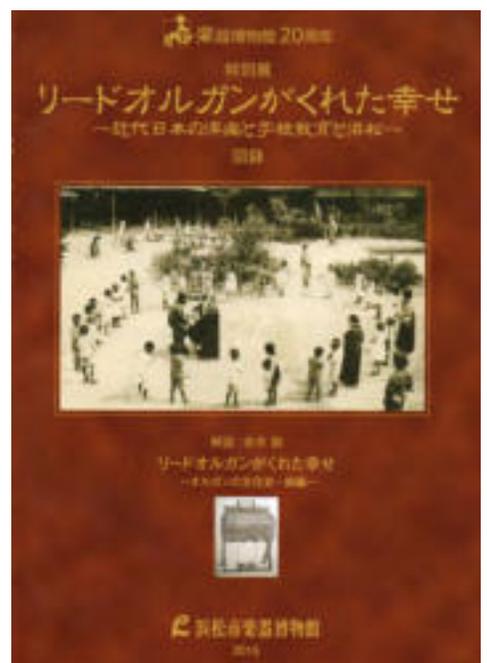
第 3 部は、今回のゲスト、作曲家でピアニスト、リードオルガン奏者の上畑正和さんのソロステージ。「呼吸するオルガン」と題して、自身の編曲による「浜辺の歌」「五木の子守唄」のほか即興演奏を披露。ピアニシモの美でオルガンの息づかい、呼吸の醍醐味を示してくださいました。

今回の大会のテーマは「昨日・今日、そして明日へ」ですから、童謡唱歌や古曲の懐かしさだけではなく、リードオルガンが楽器としてこれからの未来、明日に羽ばたいて行くひとつの方向を示してくださいました。

協会と楽器博物館の 20 周年を記念する今回の大会と公開講演会、公開コンサートは、素晴らしい内容で参加者に大きな感銘を与えて幕を閉じました。日本リードオルガン協会の今後の益々の発展を祈ります。

2015 年特別展図録発売 2009 年リードオルガンレクチャーコンサート DVD 付 「リードオルガンがくれた幸せ ～近代日本の洋楽と学校教育と浜松～」

6 月 14 日に閉幕した特別展「リードオルガンがくれた幸せ～近代日本の洋楽と学校教育と浜松～」の図録ができました。貴重な写真 150 枚以上が掲載されたリードオルガンの文化史です。日本リードオルガン協会顧問の赤井励氏の解説は、著書「オルガンの文化史」（1995 青弓社）の続編的位置をなすもので、今まで取り上げられなかった日本の洋楽導入史の貢献者島崎赤太郎について詳しく書かれています。また元大阪音楽大学音楽博物館准教授塩津洋子氏による「明治期関西のオルガン事情」は、関西での洋楽文化を物語る貴重な論考。現存最古の山葉製オルガンの写真も掲載。2009 年に開催された楽器博物館レクチャーコンサート「日本の歌と風琴と～リードオルガンの優しき調べ～」のライブ DVD も付いています。楽器博物館ミュージアムショップ、浜松市文化振興財団オンラインショップで発売。A5 版、74 ページ。1500 円（税別）。残部僅かです。入手はお早めどうぞ。



第 171 回 レクチャーコンサート〈フォルテピアノとその時代 第3回〉

「奏でる喜びをともに～エラールピアノと人生の煌めき～」



日 時：平成 27 年 5 月 27 日（水） 19:00 ～ 20:45
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：荒川智美（フォルテピアノ） 山澤慧（チェロ）
入場者：61 人

シリーズ「フォルテピアノとその時代」の第 3 回「奏でる喜びをともに～エラールピアノと人生の煌めき～」を開催しました。今回は荒川智美さんのフォルテピアノと山澤慧さんのチェロによる、デュオ作品を中心とした演奏でした。使用したフォルテピアノは 1874 年にパリで作られた「エラール」。チェロはガット絃を使用し、エンドピンの付いていない当時の姿に近い楽器を使用しました。より華やかに、より大きな音を奏でられるように様々なアイデアが取り入れられたエラールのピアノは、当時多くの音楽家に愛されていました。また、新しいだけではなく、モーツァルトやベートーヴェンが愛したウィーン式アクションのピアノの繊細さや豊かな余韻などの特徴も持ち合わせていることも、当時の絶大な支持を得た理由なのではないかと荒川さんはおっしゃっていました。

ショパンというピアノ作品のイメージの強いですが、今回はチェロとピアノのために書かれた「序奏と華麗なるポロネーズ 作品 3」が演奏されました。

プログラム最後のメンデルスゾーン作曲「チェロとクラヴィーアのためのソナタ」の演奏後、1 枚の絵を見せてくださいました。この曲が書かれた前年に彼がスイス旅行に行った際の絵だそうです。絵を描くのが大好きだったメンデルスゾーンはたくさんの絵画を残しています。

ひとりでは奏でられないデュオならではの豊かな響き、共に奏でる楽しさを感じることでできる演奏会でした。

第 172 回 レクチャーコンサート〈フォルテピアノとその時代 第4回〉

「情熱と驕りのフォルテピアノ～イタリア・スペインの遺産から～」



日 時：平成 27 年 6 月 10 日（水） 19:00 ～ 21:00
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：川口成彦 入場者：50 人

シリーズ「フォルテピアノとその時代」の第 4 回「情熱と驕りのフォルテピアノ～イタリア・スペインの遺産から～」を開催しました。今回は川口成彦さんをお招きして、生誕 360 周年を迎えたピアノ発明者「クリストフォリ」のピアノの復元品と、イギリス式アクションのピアノの代名詞ともいえる「ブロードウッド」の 2 台です。

なぜ、イギリスのブロードウッドのピアノが使用されたかというと、当時のイギリスはピアノ産業が発達していて、さらにはブロードウッドはスペイン王宮とも親密な関係でした。ピアノ産業において、イギリスとスペインは深く結びついていたのです。そこで、この 2 台の楽器を贅沢に使い、スペインとイタリアの作曲家の選りすぐりの作品を演奏していただきました。

クリストフォリのピアノでは、ピアノの為の初の曲集といわれている「ジュステイーニのソナタ長調」を含め 2 曲。ブロードウッドでは、南フランスを彷彿とさせる「J.マルティのファンダンゴ」やアンコールを含め 6 曲を演奏しました。「J.マルティのファンダンゴ」は、川口さんがスペインのマドリード音楽院の図書館で発掘されたそうです。18 世紀中頃の作品とは思えないほど鮮やかなスペインの風を感じられる作品でした。

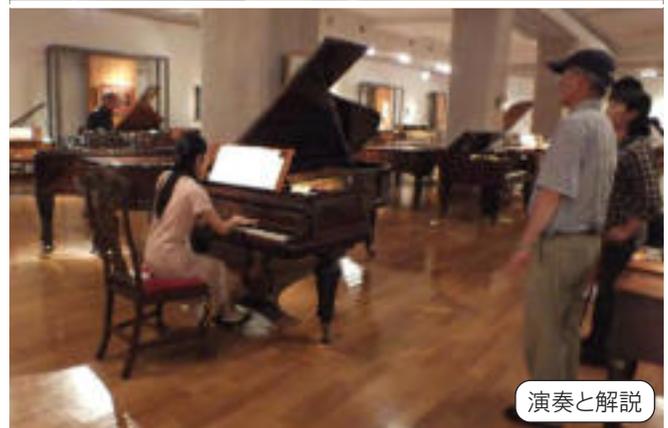
バッハやモーツァルトが活躍している時代に、スペインやイタリアではこういった音楽も存在していたのかと新たな発見があり、知られざる音の遺産に魅了された熱気溢れるコンサートになりました。

博物館と歩んで 15年 ボランティア活動の新たな試み

当館は、3年間の試行期間を経て、平成12年度よりボランティアを導入しました。市民に開かれた博物館事業の推進、市民の生涯学習の支援を目的としています。現在は7名が登録し活動を行っています。主な活動は、展示室でのお客様対応・案内、展示楽器の演奏と解説、資料整理、刊行物の送付準備、コンサートの受付などです。

今年度、楽器博物館20周年を迎えることやボランティア活動が15年目になるため、昨年度から、これまでの活動を振り返るとともに、活動の見直しを図りました。ボランティアの人数を増やすのではなく、現在活動をしているメンバーで、どんな活動ができるのかということをおきましました。そして勉強会を重ね、現在、新たな活動として展示室での概要説明を行っています。小グループのお客様からのご要望、またはこちらから声を掛けさせていただき、5分ほど館内の説明をします。初めて来館されるお客様もいらっしゃいますので、丁寧な対応は好評です。

ボランティアは、博物館とお客様あるいは展示楽器とをつなぐ役割があり、当館の大切な活動のひとつです。ボランティア自身も自己啓発に努め、博物館の力強いサポーターとして、より細やかなサービスが提供できるよう、今後も充実した活動を行っていく意気込みです。博物館としても、ボランティア活動の自立を支援し、寄り添い、共に歩んでいければと思います。



博物館日誌

6/30 (火) ~ 7/2 (木)

移動楽器博物館 浜松市立船越小学校

7/1 (水) 市制記念日 無料入館日 入館者数：150人

これからの催し物

●展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説

※催し物により変更もあります

●ギャラリートーク 毎日数回

展示品の解説を行います

●特別展

20周年記念「楽器博物館の20年～日本から世界へ～」

8/1 (土) ~ 1/11 (月)

●レクチャーコンサート

「麗しきウィーン～吹奏楽とトランペット・コーア」

9/27 (日) 14:00 音楽工房ホール 出演：カール・ヤイトラー

(指揮)、天竜楽友吹奏楽団、浜松トランペット・コーア

●講座「楽器の中の聖と俗」

エストニア・ラトビア・リトアニア

～森と湖、パルトの歌ごころ～ (全3回)

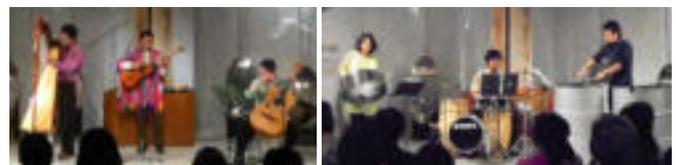
9/4 (金) 「歌声が人々の絆」

9/18 (金) 「おもてなしのフォークダンス」

10/2 (金) 「楽器を作る、奏でる」

講師：西岡信雄 いずれも 19:00 ~ 20:30 展示室

- ミニコンサート 14:00&15:30 天空ホール
- 7/25 (土) 「オカリナ」 出演：音心 (えんじろう、亮子)
- 8/1 (土) 「音楽劇『兵士の物語』クラリネット、ヴァイオリン、ピアノによるアンサンブル」
出演：廣川直子、島大輔、大空友
- 8/8 (土) 「クラリネットアンサンブル」
出演：浜松クラリネット・クワイアー
- 8/9 (日) 「サクソアンサンブル」
出演：浜松サクソフオンクラブ
- 8/12 (水) 「スチールパン」
出演：松井奈都子、木村智穂
- 8/15 (土) 「南米の楽器アルパ」 出演：長嶋忠之ほか
- 8/16 (日) 「サクソ、ヴァイオリン、ピアノによるアンサンブル」 (14:30、15:30)
出演：坂本佐智子、山村道代、猪飼温恵
- 8/17 (月) 「ハンドベル」 (11:00、13:30)
出演：大野由貴子ほか
- 8/23 (日) 「金管アンサンブル」
出演：ハママツプラスアンサンブル
- 9/23 (水) 「スチールパン」
出演：松井奈都子、伊澤陽一



浜松市楽器博物館だより 平成27年7月1日発行 No.103 編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1 TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 URL <http://www.gakkihaku.jp/>